

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 笠松町

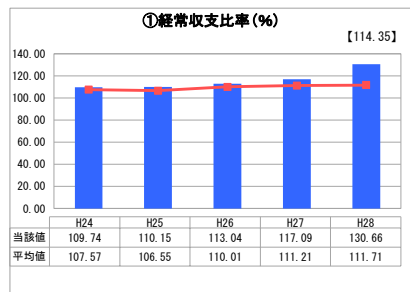
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	82.89	99.00	1,577	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
22,451	10.30	2,179.71
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
22,232	7.30	3,045.48

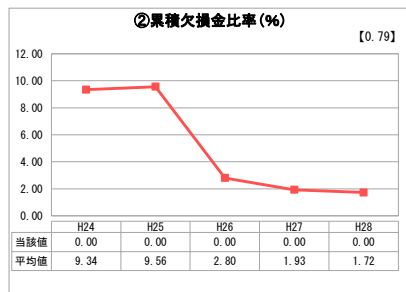
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

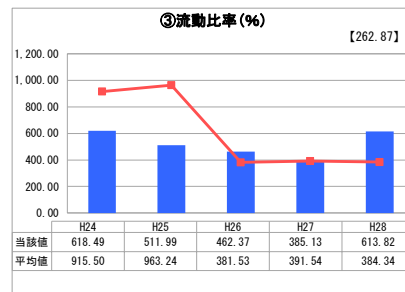
1. 経営の健全性・効率性



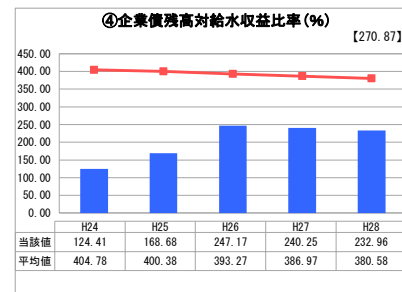
「経常損益」



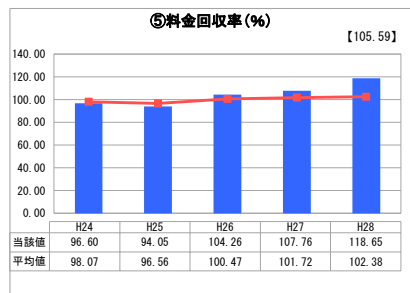
「累積欠損」



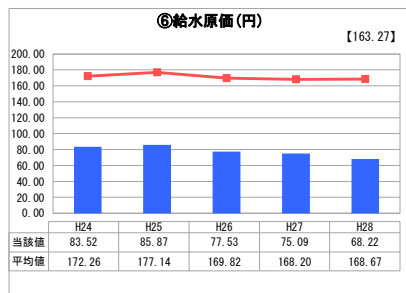
「支払能力」



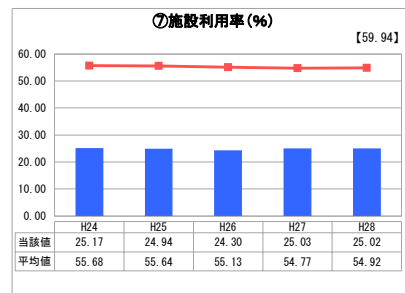
「債務残高」



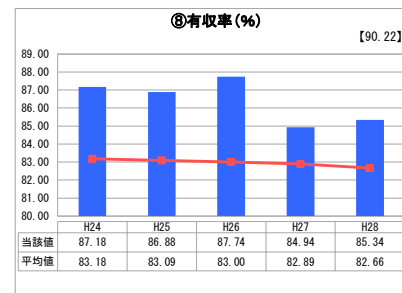
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水につきましては、地下水を使用していることから、多くの処理をしなくても良質な水道水を提供することができており、全国的にみてもかなり低い料金となっております。

財政面において、料金が安いことにより給水収益が少ない中においても、経常費用を抑えることにより、類似団体に比べ経常収支比率が高い状況で、単年度ごとにおける黒字経営を維持してきております。また、平成25、26年度に第4水源地の電気機器類の改修を行った際に企業債を借入れしましたが、類似団体と比較しても企業債の残高は低い状況であります。これは、故障等に対して早急に対応することで、大きな修繕工事ではなく修理等により機器の延命を図ってこれたことによるものであると思われまます。更に、定期的に漏水調査の実施を行っておりますので、大規模な漏水になる前に修繕が可能となっております。

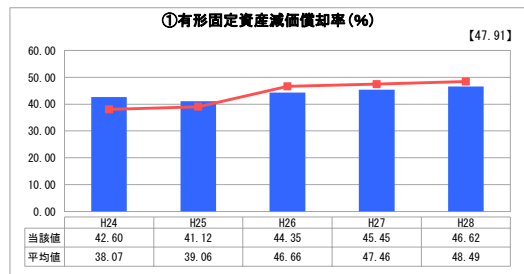
しかしながら「施設利用率」をみますと、実配水量に対する施設規模が、類似団体と比較して、余剰気味であることから、今後水源施設施設の更新をする際には、必要水量等を十分に精査し、適切な規模にすることが必須であると考えております。

2. 老朽化の状況について

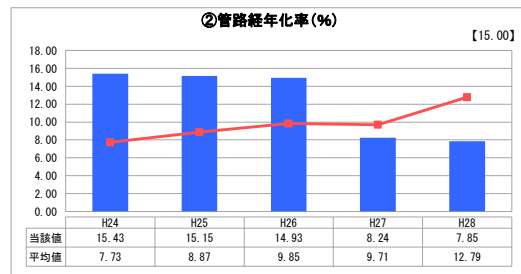
平成26年度までは、効率的な財政運営及び工事施工箇所周辺住民への負担軽減という観点から、下水道工事の際に同調して水道管の更新を進めていることにより、積極的な老朽管更新が進められておらず、管路経年化比率が類似団体平均を上回る結果となつてしまいましたが、平成27年度の工事に大きく改善しました。

平成28年度においても、平成27年度に引き続き美笠通の経年管布設工事を実施したこと及び、下水道同調工事箇所到老朽管が多く存在したことにより、管路経年化率は平成27年度並みの水準を維持し、管路更新率は上昇しました。

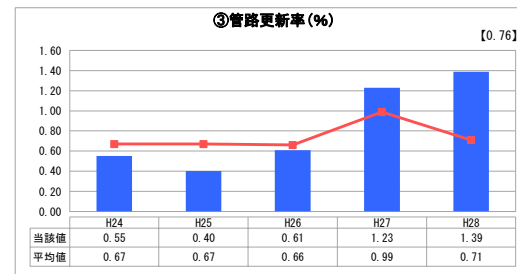
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

現段階においては、安全な水を安い料金で供給できておりますが、昨今の節水機能を備えた設備の充実等により1件あたりの有収水量が減少している現状から、給水収益の減少が懸念されております。

今後、効率的かつ安全な水の供給を実施するためには、水道管や水源施設の老朽化による更新等、状況を見極めながら計画的に実施しなければなりません。更新するにあたり多額の費用を要することから、料金改定も検討しながら、平成28年度に新水道ビジョンを策定しました。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。